

「日本人論」① 教案

〔今回の授業のねらい〕

外国人にとって、もちろん日本で暮らす留学生にとっても、日本人の思考や表現の仕方が分かりにくいとよく言われる。

日本人に限らず(否、日本人の中であってさえ)、このことは世界中で起こるのであるが、このようなことは何が原因で起こるのであろうか。

それは、価値観の違い、価値観の衝突によって引き起こされるものであるとの観点に立脚し、その価値観を生み出す文化的な背景を学ぶことを、この日本人論、日本文化論の中心に据える。

今回の「日本人論」①では、日本人の特性といわれるものを、個人、人間関係、社会全体の特徴に分けて、解説し、入門レベルでの理解とする。

〔解説と授業の展開〕

● 個人心理のレベル

- ・ 日本人の特徴・・・日本人は自我の形成が弱いと言われる。独立した「個」が確立していないと言い換えることができる。それは、どうしてだろう？
- ・ 恥と罪・・・恥の意識は日本人の精神の中核をなすと言われている。これは社会人類学者ルース・ベネディクトが、西洋の「罪」文化に対して日本を「恥」の文化と規定したことから広がった認識である。西洋では主にキリスト教に基づく罪という絶対的な倫理基準が人々の行動原理をなしているが、日本では内的な原理ではなく、外的な恥という感情が行動を律しているというわけである。このような単純化にはさまざまな批判がある。西洋人にも日本人と同じ意味での恥の意識はあるし、日本人にも内的な道徳律がある、というわけである。しかし、日本人が恥を重視するのは確かである。特に封建時代の武士にとっては、人前で恥をかくことは死に価したものである。

「恥」を感じる言葉の例・・・「穴があったら入りたい」、「顔から火が出る」 ＊
解説しながら共に考える

- ・ あなたの国では？ 中国の「面子」との比較 ＊学生に発表させる

● 人間関係のレベル

- ・ 日本人の特徴・・・日本人は集団志向であると言われている。自らの属する集団に自発的に献身する「グルーピズム」が、日本人同士のつながり方を特徴づけると言われている。

- ・ 恩と義理・・・恩とは、人から受けた恩恵に対して、社会的、心理的な義務を負うことをいい、武家社会で主君が従者に土地を与えたことに語源がある。日本の社会は、封建社会を脱してからまだ120年くらいの歴史しかないので、基本的には今でも縦社会といえる。そのため、目上の者は目下の者の面倒を公私にわたり見ることが多く、その代わり、目下の者は目上の者に恩を感じて敬意を払い、忠誠を尽くす（義理を果す）、という傾向がある。人から受けた恩を忘れることは、倫理上、許されず、この恩が、例えば家や会社という自分が属する集団（グループ）に対しても発揮されていると考えることができる。

「恩」と「義理」を感じる言葉の例・・・「～してもらった」、「恩に報いる」、「恩を仇で返す」 *解説しながら共に考える

- ・ あなたの国では？ *「恩」と「義理」の感覚を学生に尋ねる

● 社会全体のレベル

- ・ 日本人（日本社会）の特徴・・・コンセンサス・調和・統合といった原理が貫通していると言われている。だから、社会内の安定度・団結度はきわめて高く、衝突を避けるための知恵が、そこから生まれる。
- ・ 本音と建前・・・狭い共同体の中で、その構成員同士が平和に仲良く暮らさなければならないという、日本の地理的な条件は、人間関係や社会のあり方にも大きく影響を与えている。例えば、本音を言えば相手を傷つけたり怒らせたりするときは、建前を言うことで、共同体の平和を保つことができる。これは皆と違う本音は控えて、建前に順応するという習慣を生み、自分の意見をなかなか言わないという日本人への批判を生むもととなったようである。しかし、ほとんどの日本人は自己主張より和を尊ぶために本音を控えているといえる。国際社会では通用しないそのような態度は、しかし、日本の国際化と共に徐々に変わってきつつある。

「建前」を感じる言葉の例・・・「婉曲表現（はっきり言わない）」

*解説しながら共に考える

- ・ あなたの国では？ 和を尊重せんがための「建前」が母国にあるか学生に尋ねる

[本日のまとめ]

[参考文献]

- ・ インターネットから検索

[レジュメ]

添付

「日本人論」①レジュメ

〔本日の授業内容〕

1. 個人心理のレベル

- ・ 日本人の特徴

- ・ 恥と罪

- ・ あなたの国では？

2. 人間関係のレベル

- ・ 日本人の特徴

- ・ 恩と義理

- ・ あなたの国では？

3. 社会全体のレベル

- ・ 日本人の特徴

- ・ 本音と建前

- ・ あなたの国では？

〔授業のまとめ〕